

令和4年度

北保育園 SDGs



大口町立北保育園

<はじめに>

様々な企業や団体が取り組みはじめ、メディアでも多く取りあげられるようになった“SDGs（持続可能な開発目標）”

令和3年度より、町立保育園・児童センターがSDGsの17の目標の中からそれぞれ目標を掲げ、SDGsの取り組みを始めた。

大口町全体として「11. 住み続けられるまちづくり」を目標として掲げ、加えて北保育園は園舎が建て替えられ、木造園舎であることや大口町が継続して“木育”に取り組んでいることから、「12. つくる責任 つかう責任」「15. 陸の豊かさを守ろう」を目標とすることにした。

今までの木育年間計画を、SDGsを意識したものに捉えなおしをし、また、SDGsについても、生活の中で保育士や子どもたちが意識していけるように普段の保育の中で取り組めることを進めていくことにした。

<経過>

令和3年度はKPT法を用いて活動の振り返りを行った。課題や次年度に向けての取り組みとして挙げた意見は次のとおりである。

- ・汚れを落とすブラシがけは水を使うため、時期が限られる。戸外での作業も寒さで時期が限られる。また、作業の範囲が広いと終わりが見えず、子どもの集中が続かない。
- ・保護者への発信をどうしていくか。「ぴかぴかだいさくせん！」に保護者も参加してもらってはどうか。
- ・「環境にやさしい保育園」について子どもたちにどう伝えていくか。

上記の課題のクリアに向けて職員間で意見交換し、令和4年度の年間活動計画を作成した。令和4年度の主となる活動を次のようにし、取り組んでいくことにした。

- ・「スーパーぴかぴかだいさくせん！」とし、昨年度の回廊外階段をきれいにする活動、時期を明確にする。
- ・「スーパーぴかぴかだいさくせん！」を保護者へ発信し、取り組みに関心をもってもらう。また、子どもと一緒に参加してもらう機会をつくる。
- ・「地球にやさしい北保育園」を知ろう。

また、新年度で職員の異動もあったため、今までの活動についての共通理解ができるような機会を設けていった。

R4年度 北保育園「木育年間活動計画」

北保育園のSDGs：NO. 12「つくる責任 つかう責任」 NO. 15「陸の豊かさを守ろう」

ねらい：物を大切にし、相手を思いやる心を育てる。												
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
主となる 園の取り組み	<p>○『スーパーぴかぴかだいさくせん!!』</p> <p>回廊外階段をきれいにする</p> <p>汚れを落とすブラシがけ → やすりがけ → 油拭き</p> <p>→ 保護者に参加してもらう（やすりがけ）</p>											
関連活動	<p>○“地球にやさしい北保育園”を知る</p> <p>○MOTTAINAI 工房</p> <p>○木、木育に関する絵本の読み聞かせ</p> <p>○紙やすりを使う…森のお守りづくり、マイ箸の端材、丸太を使った木工 机・いすのメンテナンス（やすりがけ、油拭き）</p> <p>○年長児が年少児に紙やすりの使い方を教える</p> <p>○回廊で給食を食べる</p> <p>○マイ箸づくり、マイ箸を使う、メンテナンス</p> <p>○タイムの山の遠足に出かける（年長児）…北保育園建設とのつながりを知る</p> <p>○回廊で遊ぶ（回廊散歩、寝転ぶ、くま歩き、雑巾がけなど）</p> <p>○園庭の自然に触れる 自然物を使って遊ぶ</p>											

年長

スーパーぴかぴかだいさくせん！



体の向きと手の向きを一緒にするよ！



汚れが落ちて気持ちがいいね



きれいにしたから靴を脱いで階段をあがってね

前年度に引き続き、回廊外階段のメンテナンスに取り組んでいった。今年度は、時期を明確化していったことでブラシ掛け、紙やすり掛け、油塗りを計画的に行うことができた。また、遊びの中の一環として取り入れたことで、楽しんでできた。また、年長児としての自覚をもって年下の子にメンテナンス方法を知らせながら、生活や遊びの場面で、園舎を大切にすることも子どもたちなりの言葉で伝えていく姿が見られた。

保育園を知ろう！



僕たちもスーパーぴかぴかだいさくせん！で、前みたいにかきれいな保育園にできるかな？



保育園のシンボルツリーはタイムの山からもらったんだね！



前の北保育園はコンクリートで造られていたんだね

北保育園建設についての話を聞き、保育園ができるまでの様子や建設に携わってくださった方について知ることができ、知識を深めていった。

自然に触れ、遊ぶ

この形はコナラかな？
保育園で調べてみよう



物をつくるには時間がかかるんだね



お母さん喜んでくれるといいな



捨てちゃうものをまた使うのはSDGsだよ！



木育活動を通して、身近な自然に目を向けることが増え、散歩に出掛けた際には道端に落ちているドングリを見つけ大喜びの子どもたちであった。名前を調べたり、特徴について話し合ったりする姿が見られ、興味が広がっていった。子どもの興味に合わせて、コーナー遊び（ドングリコマ回し、芋づるリースづくり、絵本、MOTTAINAI 工房、自然物を使った工作）を設置し、楽しんでいった。ドングリのキーホルダーやジュズダマのプレスレットなど自然物を使った工作は、子どもたちが夢中で取り組み、自分の物だけでなく、家族や保育士など身近な人へプレゼントをしようと相手のことを思い、ひとつひとつ丁寧に作っていた。人や物への思いやりの心が、活動を通して身に付いていることを実感した。

年中

じーっと
見ます

スーパーぴかぴかだいさくせん！

箸も階段も油を塗るんだね！



どうやってやるの？



こうやってやるんだよ



階段に塗る
油は変わった
においだなあ

スーパーぴかぴかだいさくせん！では、保育士・子ども・保護者と協力して行うことで、保育園を大切にしている気持ちが育っていった。子どもたちは年長児にブラシ掛けや紙やすりの使い方、油塗りの仕方を教えてもらい、教えてもらったことを年少児に伝えることで異年齢での関わりももつことができた。みんなで綺麗にした保育園をこれからも大切に使い続けていきたい。

もくもくの日の取り組み

MOTTAINAI 工房



何を作ろうかな？

どんぐりゴマ



どんぐりって
こまになるん
だね！

どんぐり人形作り



どんぐり人形遊び



MOTTAINAI 工房では、廃材等を使ってアート作品を作ることによって、ゴミだった物が子どもの素敵な作品に変わった。また、自然物や廃材で物を作ったり遊んだりする楽しさを味わったことから、物を大切にする心が育まれていった。

ぎゅっと
押さえるよ



1・2・3…

数えてあげるね！
1・2・3…



大切に使ってね！



押さえて
あげるね



親子マイ箸づくり

約一年かけて、親子マイ箸づくりに取り組んだ。保護者と保育士が協力して、取り組みを進めてきたが、子どもたちも友達が削る様子を見ると、自然と手伝おうとする姿が見られ、助け合いの気持ちが育ってきたと感じる。

みんなで協力して完成した「世界に一つだけのマイ箸」。年長児になったら使用する為、進級に胸を膨らませながら、大切に使い続けていきたい。

年少

〈スーパーぴかぴかだいさくせん！〉
年中児にブラシ掛けを見せてもらう

〈スーパーぴかぴかだいさくせん！〉
ブラシ掛け



黒いお水が出てきたよ！

黒かったのに、白くなってきているよ！

メンテナンスされて
きれいになった机



紙やすいを使って
みたい！

つつつに
なってる！
大切に使おう☆

紙やすり掛け

年長児に紙やすり掛けを見せてもらう

保護者の方にも
参加していただき
ました☆



白い粉が
出て、
ツルツル
になって
きたよ！

ブラシの使い方は、年長・年中児が行う姿を真似したり、年長・年中児に優しく教えてもらったことで、喜んで取り組むことができた。ブラシを使うことが難しい子がいると、「ブラシをしっかり持つといいよ」「ブラシを上と下に動かしてみて」など、年長・年中児が年少児に声を掛ける微笑ましい姿も見ることができた。また、作業を進めていくと、汚れていた階段が綺麗になっていく変化がよく分かったため、どの子も意欲的に取り組むことができた。以前は、机の上に水筒やおもちやのカゴを乱暴に置いたり、絵本を破ってしまったりする子の姿が見られたが、このような取り組みを通し、『物を大切にすること』『優しく扱うこと』ができるようになってきていると感じる。

2歳児

「スーパーぴかぴかだいさくせん！」を見学しました



お兄ちゃんお姉ちゃん
のまねっこしたよ！

戸外遊びの際に、年少児が回廊階段のブラシ掛けを行っていた。子どもたちが興味をもち、真剣な様子でじっと見ていると、「一緒にやる？」と誘ってもらい、一緒に行った。お兄さんお姉さんの姿を見て真似をしながらブラシ掛けをする姿が見られ、「楽しかった！」という声が聞かれた。

乳児園庭の階段のブラシ掛けをしました



先生たちきれいにしているおー！
ほくもやりたいな〜！

水が真っ黒に
なったね！



乳児園庭の階段のやすり掛けをしました



どうやってやる
んだろう？

「じつじつやすり
するかな？」



保育士がブラシ掛けをしていると子どもたちが自然と集まり、「やりたい！」と言って一緒に行った。ブラシでこすったところに保育士が水をかけると、汚れが流れてきれいになったり、ブラシをバケツの中で洗うと、水が真っ黒になったりする様子が楽しかったようで、繰り返し行う姿が見られた。

紙やすり掛けは根気のいる作業であった為、子どもたちには少し難しかったが、保育士が紙やすり掛けしたところを触ったり、じっと見たりしていた。また、階段だけでなく、乳児園庭にある木製遊具の紙やすり掛けも保育士と一緒にやってみようとするなど、興味をもっている様子であった。

保育士や以上児が行っている姿を見て、興味関心を示す子どもが多かった。「何してるのかな？」「やってみたいな！」という子どもたちの姿を大切に、楽しみながら参加できるようにしていった。今年度の経験が以上児クラスへとつながっていくよう、今後も「園舎を大切にする気持ち」を伝えていきたい。

0・1 歳児

触れる活動:木の温かさや気持ち良さを五感で感じ、楽しむ



木曜日は「もくもくの日」として、木製玩具で遊び、木と触れ合う時間をもった。



つるつるして
きもちいいね!

裸足で回廊散歩をしたり、玄関のシンボルツリーに触れたりする経験をした。



『陽だまりの回廊にて』木のぬくもりや差し込む光の暖かさを全身で感じていた。心地よさそうに寝転ぶ姿も見られた。

スーパーぴかぴか大作戦！を見学しました



きれいになるように
みがいているよ!



なにしてるの？

0歳児、1歳児ともに、小さいながらもお兄さん、お姉さんの取り組みに興味深く見つめる姿があった。

未満児職員による
回廊腰板の紙やすり掛け



傷ついていた回廊の腰板を紙やすり掛けして、メンテナンスを行った。傷付かないよう、大切に扱うことも職員間で共有した。

年齢に応じた「木育」を意識し、0、1歳児は、木の良さを知り、木に親しむ経験が大切であると考え、「触れて感じる」をテーマに、木に親しみをもつことから始めた。子どもたちは木の温かみを感じながらゆったりと遊びこむ姿があり、保育士は穏やかな気持ちで保育にあたる時間ももてた。風が通り気持ちのよい回廊散歩の時には以上児の「スーパーぴかぴかだいさくせん！」の取り組みを見て、小さいながらも興味をもった様子が印象的であった。

回廊に避難車を置くことで出来てしまった腰板の傷を、紙やすり掛けをして直していった。木は柔らかく、傷つきやすいものなので、気をつけて生活していくことや優しく扱うことを職員間で共有した。

今後も木に触れ、木を感じながら、園舎に愛着を持ち、大切にすることを育んでいきたいと思う。

<考察>

「園舎を大切にする」を目標に、昨年度から回廊外階段をきれいにする取り組みを行っている。今年度は「ぴかぴかだいさくせん！」をバージョンアップして「スーパーぴかぴかだいさくせん！」とし、汚れを落とすブラシ掛けや紙やすり掛け、油塗りの活動時期を明確にし、無理なく進めていけるようにした。特に水を使うブラシ掛けは、夏の水遊びと兼ねて行うことで、遊びの延長として楽しみながら行うことができた。前提にあるSDGsを保育に捉えなおすという点では、子どもにとっても保育士にとっても良かったのではないかと思う。しかし屋外での活動はどうしても天候に左右されてしまい、計画通りにいかなかったことで保育士の焦りを生み、他の活動への影響が心配されたが、松井先生から『人生や自然が“思い通りにならない”』ということを日常で学べる』と助言いただき、考え方や思いも捉えなおしが大切であると感じた。

「スーパーぴかぴかだいさくせん！」に保護者をどう巻き込んでいくかが課題であったが、保育参観や親子マイ箸づくりなどの、保護者が園にみえる機会を利用し、保護者に呼びかけることで多くの保護者に参加してもらうことができた。日頃から活動の進捗状況を分かりやすく掲示したり、子どもたちの様子を掲示板やおたよりなどで伝えていったりしたことが、成果として出ていると感じた。

回廊外階段をきれいにするという活動を通じて、「園舎を大切にする」「物を大切に扱う」という心の育ちを感じている。今年度、以上児クラスの木の机をメンテナンスしていただき、机の表面の凸凹が滑らかに、そして艶やかになった。子どもたちはメンテナンスから戻ってきた机に触れて、手触りや匂いを楽しんでいた。そして「大事に使おう」「物を置くときは優しく」と子どもたちが自然と気をつけようとする姿があった。教えられるのではなく、自分たちで気づき、習慣となっていることを改めて実感した。

“木曜日はもくもくの日”とし、子どもたちがワクワクする活動を考え、取り組んだ。子どもたちの身近な自然物であるドングリに注目し、大きさや形の違い、木の名前など伝えたり、ドングリを使った遊びや製作を楽しんだりする機会を設けた。今までもこういった活動は行ってはいたが、今回の取り組みは子どもだけでなく、若い保育士たちにも遊びを展開する楽しさを伝えていくことにもつながったと感じる。※「MOTTAINAI 工房」では年長児から年少児まで、廃材や身のまわりにあるものを使った見立て遊びの面白さを感じ、夢中になる姿があった。また、課題であった「地球にやさしい保育園」を子どもたちにどう伝えていくかについて、わかりやすく紙芝居にしてみることにした。絵の得意な保育士が絵をかき、まずは保育園の職員に向けて説明したところ、「そんな設備があることを知らなかった」「木造園舎の良さが分かった」などの意見が聞かれた。今後は要点を絞るなどし、子どもたちにもより分かりやすく伝えられるようにしていきたい。

SDGsの取り組みを始めて2年経ったが、様々な活動を通して「園舎を大切にする気持ち」や「傷んだところをなおして大切に使い続けていくことの大切さ」が特別なことではなく日常となってくれること、子どもたちの活動がまわりの大人に伝わり、行動変容につながっていくことを実感している。SDGsが身近なものになり、少しずつ社会やみんなの意識に変化が見られるようになってきた今、子どもたちとこれからも身の丈でできるSDGsに取り組んでいきたい。

※MOTTAINAI 工房とは…まわりにある自然物や廃材物を組み合わせて遊ぶ、見立て遊び